



# 「宮崎ひなた生活圏づくり」モデル構築事業 ～所得安定・向上モデル～

平成31年1月  
宮崎県総合政策部  
中山間・地域政策課

# はじめに

この事例集は、宮崎県が平成28年度から29年度にかけて実施した「宮崎ひなた生活圏づくり」の一環である「所得安定・向上モデル地域支援事業」において支援した県内3地域の取組を紹介するものです。

## 「宮崎ひなた生活圏づくり」とは

中山間地域等における日常生活に必要なサービスや機能を維持していくため、多様な主体がそれぞれの役割の中で連携・協働しながら、複数の集落を交通・物流のネットワークで結ぶことで圏域全体の生活を守る仕組みづくりや、住み慣れた地域に将来にわたって安心して住み続けるためのセーフティネットの構築に取り組むものです。

## 農山漁村における所得の安定・向上への取組

平成28年度は、「ネットワークで明日に繋ぐ！『宮崎ひなた生活圏』モデル構築事業」として、住民協働型バス「庄内ふれあい号」(都城市)の取組や、コミュニティバスを活用した宅配システム「カリコボーズのホイホイ便」(西米良村)の実現に向けた取組、集落支援員による高齢者の地区内移動や庭先集荷等(椎葉村)への取組を支援しました。

このような集落のネットワーク化への取組と併せて、集落生活圏における「仕事づくり」や「稼ぐ仕組みづくり」は、人の確保の面で何より重要であるため、地域の所得安定・向上モデルの創出により、持続可能な地域づくりに取り組む町村に対して2か年に渡って支援を行いました。

### 《紹介事例》

- ① 循環型地域経済へのアプローチ(西米良村) ..... 2頁
- ② 「小さな仕事」マッチングシステムの構築による地域の所得と担い手の確保(諸塚村) ..... 3頁
- ③ 地域資源を活用した「地域ビジネス」の創出(美郷町) ..... 4頁

## ①循環型地域経済へのアプローチ

(西米良村)

西米良村では、村内産業の外貨を稼ぐ力が弱く、また、村外からの調達に依存しているため、村内消費・移輸出の拡大、雇用の場の創出等に向けた、地域内でカネが回る仕組みづくりに取り組んでいます。

### 事業概要

#### ○ 地域にお金が循環する仕組みづくり【平成27～29年度】

- ・ 経済構造分析の実施～産業連関表の作成～  
(村内事業所向け取引実態に関するアンケート調査、個人向け家計消費動向アンケート調査)
- ・ 農産物に関する実態調査  
(学校給食等利用食材調査、物産販売所調査、生産者意向調査、消費者ニーズ調査、村内飲食店、給食提供施設)
- ・ 野菜販売棚の設置(実証棚)、野菜の庭先集荷の試行
- ・ 生産者情報・農産物情報の集約と飲食店等とのマッチング
- ・ 受注窓口の一本化へ向けた取り組み



野菜販売棚の設置(実証棚)

### 特徴的な取組・成果

#### ○ 丁寧な実態調査と協力体制づくり

- ・ 消費者から生産者、加工・販売者に至るまで、村内農産物の動きを丁寧に調査・分析し、課題を抽出。また、生産者、消費者(飲食店、旅館業等)を集めて、地域内循環に対する協力体制と必要性について周知を図る。

#### ○ 生産者情報と飲食店等のマッチング

- ・ 実態調査により判明した村内で生産される農作物等の情報を1つにまとめることで、生産の時期、量、種類等を把握・調整し、定時・定量など安定した供給体制づくりに取り組んでいる。



地域野菜の生産振興

### 課題と今後の展開

#### ○ 地域商社的動きのできる人材の育成

- ・ 全体を統括する地域商社的機能を有し、取引や受発注、ブランディング等を行う人材の育成

#### ○ 伝統野菜の生産振興、地域資源を活用した商品開発と戦略的PR

### 参考ポイント

- 地域経済循環の視点に立って、食と村全体のブランディングを推進している。
- 生産者、旅館・飲食店、行政との間で村内農産物取扱い割合の引き上げに向けた共通認識の形成が図られている。

## ② 「小さな仕事」マッチングシステムの構築による地域の所得と担い手の確保（諸塚村）

諸塚村では、椎茸栽培をはじめとした個人農家や民宿、旅館、飲食店等の「手伝い」のような時間・期間が限定的な仕事の潜在的ニーズと、子育て中の女性の短時間・短期間労働やUIJターン者の農作業経験によるスキルアップを結びつけるため、「小さな仕事」※をマッチングさせるシステムづくりに取り組みました。

※「小さな仕事」…繁忙期の農家の手伝い、飲食店の業務が重なる時間帯などの季節や時間帯に限られた仕事

### 事業概要

#### ○ 現場の実情に合わせた村独自の求人・求職マッチングシステムの構築 【平成28～29年度】

- ・ マッチングシステム構築に向けたアンケート、事例調査、ヒアリングの実施
- ・ 傷害保険の検討、地域内ニーズの掘り起こし、求職者の研修制度の構築
- ・ 運用体制の整備、マッチングシステムの試験運用

### 特徴的な取組・成果

#### ○ 法的課題を知恵と工夫で解決

- ・ 職業紹介事業の制限や派遣業法等との関係もあり、法的整理が難しいと考えていた中、雇用契約ではなく委託業務契約という形で関係機関と整理し、数年前からの構想を実現

#### ○ 血縁関係等で補っていた一時的な労働力需要を潜在する労働力で補う

- ・ 農林業では血縁筋で一時的な労働力需要をまかなう習慣があるため、村内であっても他人に頼むことに不慣れな状況がある中、将来、血縁筋では人手がまかなえなくなることを見越し村独自のシェアリングエコノミーに取り組む

### 稼働状況

H30.12  
現在

- ① 本格稼働 平成29年9月
- ② 登録件数 [H29.9～H30.3] 求人：10件（うち法人2件） 求職：7名  
[H30.4～H30.12] 求人：21件（うち法人5件） 求職：17名（うち大学生10名）
- ③ 求人内容 椎茸コマ打ち・収穫・ほだ木移動 / 田植え / ミニトマト収穫・管理 / お茶のパック詰め / 施設清掃 / 飲食接客 / 調理 等
- ④ マッチング数 [H29.9～H30.3] 累計13件 / [H30.4～H30.12] 累計28件
- ⑤ 課題 ・登録件数の拡大（力仕事に対応できる男手の確保や、短時間・短期間の手伝いを仕事として外注することへの抵抗感の払拭）  
・スキルアップ（椎茸の収穫ひとつとつともうまくやらないと商品価値を失う）

### 参考ポイント

- 地域産業の維持と新たな労働力資源の確保を一体的に推進し、山間部における1つの経済システムを創出
- 事業の担い手となる一般社団法人を設立し、人材の育成と将来の自立自走を目指す



マッチングを行う  
（一社）ハチハチの森代表



作業風景  
（上：穴開け・コマ打ち）  
（下：田植え補助）



美郷町渡川地区では、30代のUターン者を中心に地域を盛り上げる動きが出てきた中、地域資源を活用した渡川ならではの地域ビジネスの創出を目指して、地域全体が取り組んでいます。

#### 事業概要

#### ○コーディネーターを招聘し、渡川の資源を生かした地域ビジネスを創出【平成28～29年度】

- ・「渡川みらい会議」の設立（平成28年8月）
- ・地域ビジネス講座の開催
- ・売り出していく地域資源の選定・商品開発
- ・渡川の魅力体験イベントの実施や販路開拓、情報発信

#### 特徴的な 取組・成果

#### ○地域住民みんなで参加し、地域の向かっていく方向性を共有

- ・「渡川みらい会議」を設置し、子どもから高齢者まで多くの地区住民が参加するワークショップを開催。地域の課題や強みを認識するとともに、地域ビジネスの創出手法等の講座を開催。

#### ○地域で、個人で、「稼ぐ」ことへの意識の高まり

- ・地域ビジネス講座の受講を転機に、高齢者の加工グループが、クラウドファンディングを実施し、活動拡大のための資金作りにチャレンジ。
- ・「どがわの里山学校」を通じて、椎茸パウダーの商品開発を行うとともに、「稼ぐ」ことに対して受け身だった住民が自ら動く姿勢に変化してきた。

#### ○渡川ファンづくりのための様々な仕掛けを展開

- ・情報紙（どがわ新聞）やPR動画（どがわ物語）等を制作・発信し、渡川の魅力を域外へ積極的に伝えるとともに、住民にとっては、その制作過程を通じて地域の魅力を再認識し、地域への誇りを醸成することにつながった。

#### 参考 ポイント

- 地域住民自らが地域の将来を考え、行動し、地域づくりに取り組んでいる。
- 若者から高齢者までの幅広い世代が、新たな事に積極的に取り組むなど、相乗効果が生まれている。



地区の将来を検討する「渡川みらい会議」



配食から新たに加工品づくりまで  
取り組む「渡川マンマ」



地域資源の活用を学ぶ  
「どがわの里山学校」